

9 公設花き地方卸売市場事業特別会計

(1) 業務実績（審査資料 157～158頁参照）

取扱量は2,038万8千本・鉢(内訳は切花1,865万6千本、鉢物49万7千鉢、その他(苗物等)123万5千本)で、前年度に比べ76万本・鉢(3.6%)減少している。

取扱金額は13億49万4千円で、前年度に比べ6,873万5千円(5.0%)減少し、平均価格は63.79円/本・鉢で、前年度に比べ0.96円(1.5%)低下している。

(2) 経営成績

ア 収益（審査資料 159頁参照）

経常収益は4,382万1千円で、前年度に比べ69万8千円(1.6%)減少している。

このうち、収入の根幹である売上高割使用料は358万円、売場使用料は1,994万7千円で、前年度と比べると、取扱金額の減により売上高割使用料は22万3千円(5.9%)減少している。また、他会計補助金が46万9千円(2.8%)減少している。

イ 費用（審査資料 159～160頁参照）

経常費用は4,364万3千円で、前年度に比べ11万円(0.3%)減少している。この内訳を前年度と比べると、報酬が189万9千円(93.6%)減少し、賃金が168万8千円(皆増)増加している。

ウ 損益（審査資料 159～160頁参照）

経常収支では17万8千円の経常利益であり、前年度に比べ58万8千円(76.8%)減少している。この結果、当年度純利益も同額の17万8千円となっている。なお、当年度未処分利益剰余金は4,179万1千円となっている。

エ 収益性の分析（審査資料 161頁参照）

事業活動の収益性を表す営業収益対営業費用比率は54.6%(前年度比0.4ポイント減)と理想比率(100%以上)を下回っているものの、一般会計補助金等の営業外収益や雑支出等の営業外費用を含めた総収益対総費用比率は100.4%(同比1.3ポイント減)と、理想比率(100%以上)を上回っている。

(3) 財政状態

ア 資産、負債及び資本

(ア) 資産（審査資料 161～162頁参照）

資産は19億876万1千円で、前年度に比べ272万2千円(0.1%)減少している。この内訳を前年度と比べると、建物の減価償却等により固定資産が1,262万円(0.8%)減少し、現金・預金等の流動資産が989万8千円(3.4%)増加している。

(イ) 負債及び資本（審査資料 161～162頁参照）

負債は5,221万4千円で、前年度に比べ290万円(5.3%)減少している。この内訳を前年度と比べると、固定負債(前年度比60万9千円、10.9%増)では、退職給付引当金が60万9千円(10.9%)増加し、流動負債(同比36万9千円、3.7%増)では、主に未払金39万7千円(6.9%)が増加している。

また、繰延収益(同比△387万8千円、9.8%減)では、長期前受金が387万8千円(9.8%)減少している。

資本は18億5,654万7千円で、前年度に比べ17万8千円(0.0%)増加している。この内訳を前年度と比べると、当年度純利益の発生に伴う利益剰余金が17万8千円増加している。

イ 財政状態に関する経営指標（審査資料 163頁参照）

流動比率(流動負債に対する流動資産の割合)は2,932.5%(同比9.4ポイント減)と理想比率(100%以上)を上回っている。

なお、地方公共団体財政健全化法施行令第16条に定める資金不足比率の算定に用いる資金の不足額は、流動負債(企業債等を除く)の額が流動資産の額を下回っているため生じていない。

(4) キャッシュ・フローの状況（審査資料 163頁参照）

事業活動に伴う資金の増加又は減少を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して経営の実態をみると、業務活動では使用料や一般会計補助金等の収入額が経費の支払額を上回り1,043万2千円の資金を生み出している。なお、投資活動、財務活動はない。

この結果、本年度末の資金残高は2億9,492万6千円となり、前年度に比べ1,043万2千円(3.7%)増加している。

(5) 一般会計からの繰入状況（審査資料 164頁参照）

一般会計からの繰入金は補助金であり、繰入額は1,639万4千円で前年度に比べ46万9千円(2.8%)減少している。この内訳は、収益的収入に係る繰入金で、業者の指導監督等に要する経費分の860万2千円(前年度比10万4千円、1.2%増)と維持管理経費分の779万2千円(同比△57万3千円、6.8%減)である。

(6) むすび（審査意見）

本市公設花き地方卸売市場事業は、昭和62年の市場開設以来、全国各地から花きを集荷し、県内のみならず近隣他県へも供給を行い、花き取引の適正化と流通の円滑化に重要な役割を果たしている。

しかしながら、花きの需要は低迷しており、これにインターネット取引等の市場外取引の増加や、生産者の高齢化及び後継者不足も加わり、全国的に花きの取扱量は減少傾向が続いている。

本市場の業務実績においても、取扱量は平成10年度以降減少傾向にあり、前年度に比べ76万本・鉢の減少となっている。

収支状況については、報酬等の費用が減少したものの、それ以上に一般会計補助金等の収益が減少したため、経常利益は前年度より減少している。この結果、純利益は17万8千円となり、当年度未処分利益剰余金は4,179万1千円余となっている。

キャッシュ・フローの状況は、業務活動の資金確保が順調であり、資金残高は前年度に引き続き増加している。

本事業においては、年度末からの新型コロナウイルスの感染拡大により花き需要は一層減少し、経営環境はますます厳しくなると予想される。したがって、全国産地への出荷要請活動等の更なる強化により市場の活性化を図るとともに、子どもたちへの花育や、無購買層・低購買層に向けたPRの推進により、花きの普及促進と消費拡大に努められ

たい。併せて、卸・仲卸業者の経営基盤の強化等にも引き続き取り組まれない。

加えて、中央卸売市場再整備に伴う編入に向けて、効率的かつ効果的な市場運営の準備に万全を期されたい。

(審査資料)

1 業 務 状 況

(1) 市場関係業者数の推移

区 分	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
卸売業者	社	1	1	1	1	1
仲卸業者	社	2	2	2	2	2
売買参加者	人	275	277	279	280	280
関連事業者	人	1	1	1	1	1

(注) 数値は、各年度末のものである。

(2) 取扱量、取扱金額及び平均価格の推移

【取扱量】

区 分	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
切 花	千本	20,969	20,310	19,590	19,403	18,656
鉢 物	千鉢	631	577	527	520	497
その他(苗物等)	千本	1,455	1,323	1,314	1,225	1,235
合 計	千本・鉢	23,055	22,210	21,431	21,148	20,388

【取扱金額】

区 分	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
切 花	千円	1,121,179	1,112,479	1,052,434	1,044,778	997,525
鉢 物	千円	267,292	259,238	242,721	241,587	231,217
その他(苗物等)	千円	85,344	83,140	78,561	82,864	71,752
合 計	千円	1,473,815	1,454,857	1,373,716	1,369,229	1,300,494

【平均価格】

区 分	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
切 花	円/本	53.47	54.78	53.72	53.85	53.47
鉢 物	円/鉢	423.81	449.39	460.53	465.00	465.47
その他(苗物等)	円/本	58.66	62.81	59.80	67.64	58.09
合 計	円/本・鉢	63.93	65.50	64.10	64.75	63.79

ア 取扱量は、前年度に比べ76万本・鉢(3.6%)減少している。この内訳を区分別で見ると、切花が74万7千本(3.8%)、鉢物が2万3千鉢(4.4%)それぞれ減少し、その他(苗物等)が1万本(0.8%)増加している。

イ 取扱金額は、前年度に比べ6,873万5千円(5.0%)減少している。この内訳を区分別で見ると、切花が4,725万3千円(4.5%)、鉢物が1,037万円(4.3%)、その他(苗物等)が1,111万2千円(13.4%)それぞれ減少している。

3 経営成績

(1) 経営成績

(単位：千円・%)

科 目	元年度	30年度	増 減	
			金 額	比 率
経 常 収 益	43,821	44,519	△ 698	△ 1.6
営業収益	23,527	23,751	△ 224	△ 0.9
営業外収益	20,294	20,768	△ 474	△ 2.3
経 常 費 用	43,643	43,753	△ 110	△ 0.3
営業費用	43,056	43,227	△ 171	△ 0.4
営業外費用	587	526	61	11.6
経 常 利 益	178	766	△ 588	△ 76.8
当 年 度 純 利 益	178	766	△ 588	△ 76.8

ア 収 益

- (ア) 営業収益の減少は、主に売上高割使用料22万3千円(5.9%)の減少による。
- (イ) 営業外収益の減少は、主に他会計補助金46万9千円(2.8%)の減少による。
- (ウ) 総収益の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
売上高割使用料	4,094	4,041	3,816	3,803	3,580
売 場 使 用 料	19,949	19,949	19,948	19,948	19,947
他 会 計 補 助 金	16,690	16,827	16,716	16,863	16,394
長期前受金戻入	3,878	3,878	3,878	3,878	3,878
そ の 他 収 入	121	46	46	27	22
総 収 益	44,732	44,741	44,404	44,519	43,821

イ 費 用

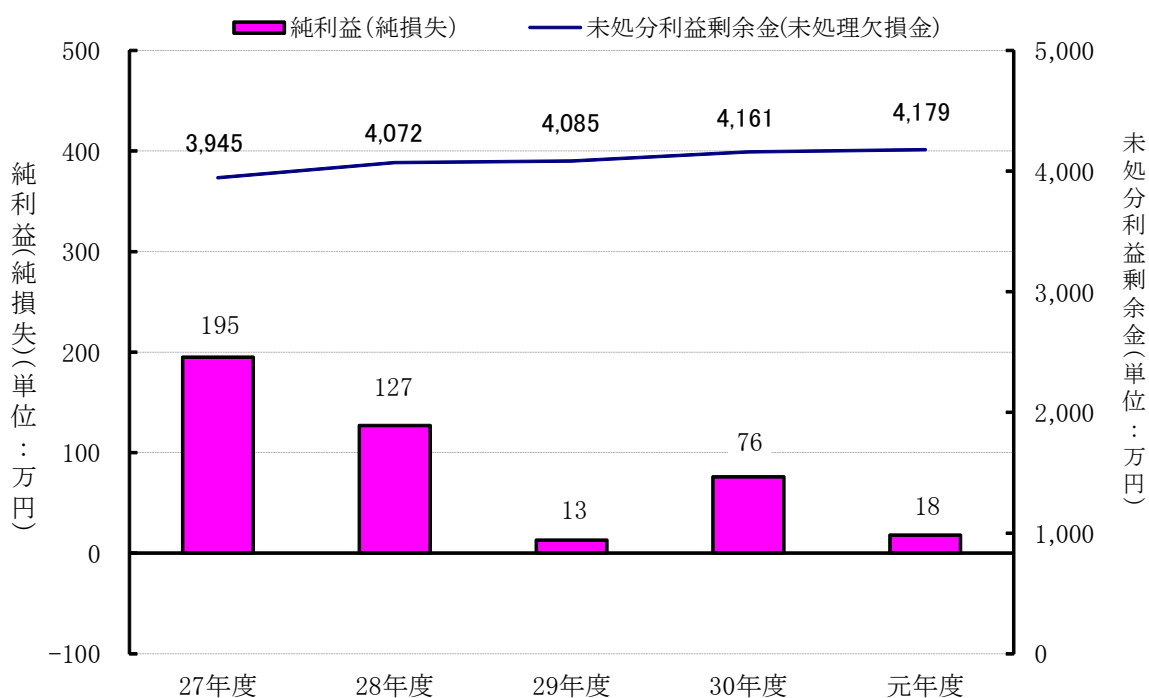
- (ア) 営業費用の減少は、主に次の項目の増減による。
- | | |
|----|--------------------|
| 報酬 | △ 189万9千円(△ 93.6%) |
| 賃金 | 168万8千円(皆 増) |
- (イ) 営業外費用の増加は、雑支出6万1千円(11.6%)の増加による。
- (ウ) 総費用の性質別経費の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

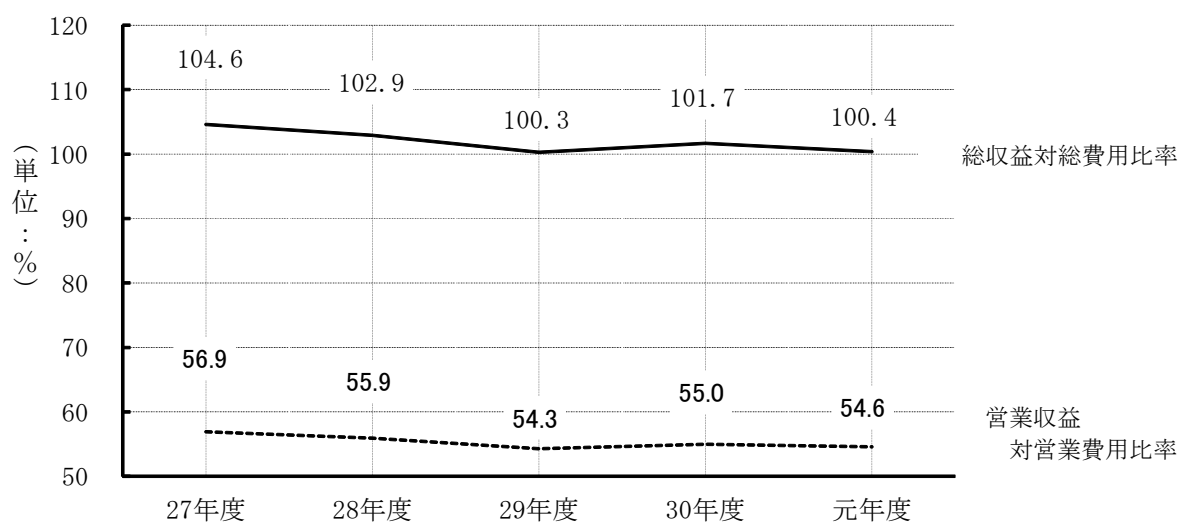
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
人 件 費 (退職給付費を除く)	10,601 (10,147)	11,005 (10,550)	11,499 (10,808)	11,114 (10,441)	10,710 (10,101)
減 価 償 却 費	12,108	12,108	12,108	12,309	12,620
委 託 料	12,706	13,294	12,005	13,048	12,696
そ の 他 費 用	7,360	7,064	8,664	7,282	7,617
総 費 用	42,775	43,471	44,276	43,753	43,643

ウ 損 益

- (ア) 経常利益の減少は、報酬等の営業費用の減少に比べ、他会計補助金等の営業外収益の減少が大きいことによる。
- (イ) 当年度純利益は、17万8千円である。
- (ウ) 当年度純利益(純損失)及び当年度未処分利益剰余金(未処理欠損金)の推移は、次のとおりである。



(2) 収益率の推移



…………… (巻末付表 1 参照)

(注) 1 総収益対総費用比率は、100%以上大きいほど良好である。

2 営業収益対営業費用比率は、100%以上大きいほど良好である。

4 財政状態

(単位: 千円・%)

科目	元年度	30年度	増減	
			金額	比率
資産	1,908,761	1,911,483	△ 2,722	△ 0.1
固定資産	1,607,218	1,619,838	△ 12,620	△ 0.8
流動資産	301,543	291,645	9,898	3.4
資産合計	1,908,761	1,911,483	△ 2,722	△ 0.1
負債	52,214	55,114	△ 2,900	△ 5.3
固定負債	6,180	5,571	609	10.9
流動負債	10,283	9,914	369	3.7
繰延収益	35,751	39,629	△ 3,878	△ 9.8
資本	1,856,547	1,856,369	178	0.0
資本金	1,814,756	1,814,756	0	0.0
剰余金	41,791	41,613	178	0.4
負債資本合計	1,908,761	1,911,483	△ 2,722	△ 0.1

(1) 財政状態

ア 資産

(ア) 固定資産の減少は、主に建物1,175万9千円(8.6%)の減少による。

なお、有形固定資産減価償却累計額は5億4,252万1千円であり、前年度と比べると1,262万円増加している。

- (イ) 流動資産の増加は、次の項目の増減による。
- | | |
|-------|-------------------|
| 現金・預金 | 1,043万2千円(3.7%) |
| 未収金 | △ 53万4千円(△ 14.1%) |

なお、未収金の内訳は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	元年度	30年度	増 減	
			金 額	比 率
売上高割使用料	352	416	△ 64	△ 15.4
他会計補助金	2,893	3,363	△ 470	△ 14.0
未収金合計	3,245	3,779	△ 534	△ 14.1

(注) 未収金は年度末の数値であり、消費税及び地方消費税を含む。

イ 負 債

- (ア) 固定負債の増加は、退職給付引当金60万9千円(10.9%)の増加による。

なお、引当金の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
退職給付引当金	5,318	5,773	4,898	5,571	6,180

- (イ) 流動負債の増加は、主に未払金39万7千円(6.9%)の増加による。

- (ウ) 繰延収益の減少は、長期前受金387万8千円(9.8%)の減少による。

ウ 資 本

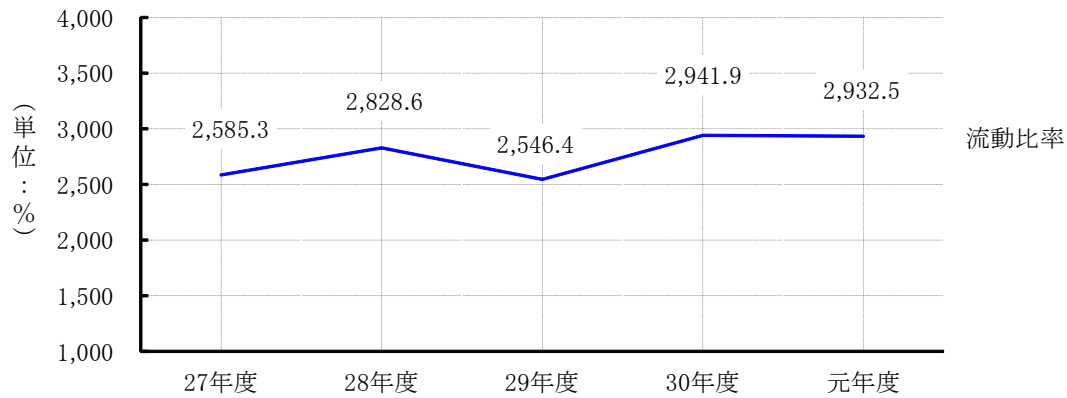
- (ア) 資本金の増減はない。

- (イ) 剰余金の増加は、利益剰余金17万8千円(0.4%)の増加による。

- (ウ) 利益剰余金の増加は、当年度未処分利益剰余金17万8千円(0.4%)の増加による。

- (エ) 当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金4,161万3千円に当年度純利益17万8千円を加えた4,179万1千円となっている。

(2) 財務比率の推移



…………… (巻末付表 1 参照)

(注) 流動比率は、100%以上大きいほど良好である。

5 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

項目	元年度	30年度	増減
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益(△は純損失)	178	766	△ 588
減価償却費	12,620	12,309	311
退職給付引当金の増減額(△は減少)	609	673	△ 64
賞与等引当金の増減額(△は減少)	△ 25	31	△ 56
長期前受金戻入額	△ 3,878	△ 3,878	0
受取利息及び受取配当金	△ 22	△ 27	5
未収金の増減額(△は増加)	534	△ 116	650
未払金の増減額(△は減少)	397	△ 1,348	1,745
未払費用の増減額(△は減少)	△ 3	△ 23	20
小計	10,410	8,387	2,023
利息及び配当金の受取額	22	27	△ 5
業務活動によるキャッシュ・フロー	10,432	8,414	2,018
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	-	△ 3,459	3,459
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-	-
資金増減額(△は減少)	10,432	4,955	5,477
資金期首残高	284,494	279,539	4,955
資金期末残高	294,926	284,494	10,432

6 一般会計からの繰入状況

(単位：千円・%)

区 分	元年度	30年度	増 減	
			金 額	比 率
収益的収入に係る繰入金	16,394	16,863	△ 469	△ 2.8
営業外収益	16,394	16,863	△ 469	△ 2.8
補助金	16,394	16,863	△ 469	△ 2.8
業者の指導監督等に要する経費(30%)	8,602	8,498	104	1.2
維持管理経費	7,792	8,365	△ 573	△ 6.8

7 資 料

業 務 実 績 表

項 目		単 位	元 年 度	3 0 年 度	増 減
施 設	卸 売 場	m ²	1,446	1,446	0
	仲 卸 売 場	〃	293	293	0
	買 荷 保 管 ・ 積 込 所	〃	357	357	0
	業 者 事 務 所	〃	499	499	0
	関 連 事 業 者 店 舗	〃	98	98	0
	管 理 事 務 所	〃	100	100	0
	そ の 他 (通 路 ・ 階 段 等)	〃	558	558	0
	守 衛 室	〃	8	8	0
	苗 物 保 管 施 設	〃	351	351	0
	ご み 集 積 場	〃	16	16	0
	建 物 合 計	〃	3,726	3,726	0
	平 地 駐 車 場	〃	5,930	5,930	0
	計	〃	9,656	9,656	0
	業 務 量	切 花 取 扱 量	本/年	18,656,154	19,403,313
鉢 物 取 扱 量		鉢/年	496,741	519,547	△ 22,806
そ の 他 (苗 物 等) 取 扱 量		本/年	1,235,141	1,225,109	10,032
計		本・鉢/年	20,388,036	21,147,969	△ 759,933
切 花 一 日 平 均 取 扱 量		本/日	91,902	94,191	△ 2,289
鉢 物 一 日 平 均 取 扱 量		鉢/日	9,935	10,391	△ 456
そ の 他 (苗 物 等) 一 日 平 均 取 扱 量		本/日	6,084	5,947	137
職 員 数	主 事	人	3 (うち兼務 2)	3 (うち兼務 2)	0 (うち兼務 0)
	技 師	〃	2 (うち兼務 2)	2 (うち兼務 2)	0 (うち兼務 0)
	非 常 勤	〃	1	1	0
	計	〃	6 (うち兼務 4)	6 (うち兼務 4)	0

(注) 1 敷地所有面積は9,195m²である。

2 職員として、上記のほかに他会計支弁職員2人がいる。